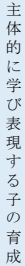
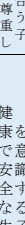
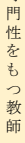




 本年度の 重点目標		(1) 主体的に学び、表現する力を伸ばす指導（継続） (2) 研修及び実践を通じた専門性の向上		
項目		担当	具体的方策	評価結果と課題
 目指す子ども像に向けた教育活動	 主体的に学び表現する子の育成 ・教育課程 ・ICT活用 ・自己選択	中 学 部	・生徒一人一人のコミュニケーション力の向上を図り、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを目指す。	・一人一人のコミュニケーション方法を学期ごとに学校関係者で整理し直して教室での掲示を継続した。授業や生活の場面で自己選択の機会を設定し、生徒の表出する力を育むことができた。〔重複障害学級〕 ・各教科等で対話を重視した授業を計画する中で、生徒が発言しやすい発問の仕方を工夫して主体的な学びの実践ができた。教師との対話だけでなく、生徒間のコミュニケーションを更に深めていけるとよい。〔通常学級〕
		高 等 部	・卒業後の自立や社会参加に必要な知識や技能を育成し、主体的に課題を解決する態度を養う。	・次の方策を行った。①1学期にICTの活用や自己選択の場面について教師に聞き取りをし、一覧にまとめたものを部会でご周知した。②2学期に教師がICT活用や自己選択の場面でテーマに授業公開をし、教師同士授業を見合った。①や授業参観で得たことを踏まえ授業実践をした。 ・12月の教師へのアンケートでは、個に適した課題を設定し、ICTを使って分かりやすい提示をしたり自己選択の場面を創出したりすることで、生徒が主体的に意思表示をしたり活動したりすることが増えたと回答した教師が多く、一定の成果が認められた。
		山嶺教室	・作業学習を通して、地域から愛される学校を目指す。	・奥三河総合センター等の4か所の公共施設の意清掃を年間8回計画した。利用者や職員から温かい言葉かけやお礼の言葉をいただき、地域の方々と触れ合いながら活動ができた。 ・設楽町役場で作業学習で作製した製品の販売を行った。役場の方に依頼し事前に町内放送で周知していただくことで、多くの町民の方と触れ合い、山嶺教室を知っていただくことができた。
		教 務 部	・各教科や各教科等を合わせた指導において、学習指導要領の各教科の指導目標の達成に迫る授業を行うために、各教科で育成する資質・能力を明確にする。 ・自立活動を主とした教育課程において、各教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを踏まえ、児童生徒の実態に応じたよりよい教育課程の編成をする。	・校内研究を通して、各教科等を合わせた指導の年間指導計画の見直しを行い、単元ごとに重点的に指導する教科と内容を記入し、足りない教科の視点を取り入れた単元を追記することができた。次年度以降、年間指導計画モデル案の整備を行ってきたい。 ・校内研究を通して、現在集団で行っている自立活動の時間の指導について、教科として捉えられるか検証を行った。事後アンケートの結果を踏まえ、児童生徒一人一人の自立活動の視点を大切にしながら、教科として捉えて実施していくという方向性を出し、令和7年度の教育課程を編成し、提案することができた。
		情報図書部	・児童生徒が活用しやすい図書の配架方法を工夫する。 ・児童生徒がICTを活用しやすい環境を整え、学習活動の充実を図る。	・絵本のコーナーをジャンル別に配架するため、図書に貼るラベルの作成を行った。図書をジャンル別に選書し直し、配架作業を進めることができた。 ・職員室内にICT機器の使い方が分かるコーナーを設置し、周知することができた。 ・職員向けにタブレット端末の基本的な操作や、「Keynote」や「Clipchamp」のアプリの自由研修を行うなど、職員のICT活用の推進に取り組むことができた。
 友達の尊重し 健康をで意 識全する生活	 ・人権教育 ・防災教育 ・食育 ・学校安全	指 導 部	・「とよまつ人権ウィーク」を設定し、授業で人権に関係する内容を取り扱う。	・人権週間実施計画を提示する際に、考えられる指導内容の教育課程別の提示、事前に行った授業実践の報告書類の提示を行った。12月2日～8日に実施し、学級別の実施内容を一覧表にまとめた。初めての試みであったが、大きな混乱もなく、学級ごとの実態や目標に合わせた人権教育が行えた。
		指 導 部	・「とよまつ防災の日」を実施し、避難訓練や防災学習、一斉下校訓練などに取り組む。	・5月10日に「とよまつ防災の日」を実施し、午前中に防災学習、午後に地震避難訓練、一斉下校訓練を行った。防災学習では豊橋市防災危機管理課と連携し、地震車体験や煙体験等を行った。煙体験で煙を吸わずに避難する方法を学ぶなど、防災意識が向上した。
		保 健 部	・学校保健、学校給食、学校安全等にかかわる重要事項を教職員に周知徹底し、安全管理体制を構築する。 ・生活単元学習等の年間指導計画に食育授業を組み込み、各部各クラスで実態に合わせた授業を展開する。	・さまざまな授業体制を想定した緊急時の初動訓練に取り組むことができた。ヒヤリハット報告件数が増えたことで、職員全体が自分事として捉える雰囲気になり、危機意識がさらに向上できた。課題として、来年度はけがや事故件数がいかに減らすことができるか考えていきたい。 ・緊急放送のかけ方の変更や学校保健・安全・給食に関わるマニュアルやルールをまとめた「はげんしのおり」を作成した。今後、活用できるように全職員に周知し、情報共有する。 ・形態調整食の形状やまとまりを、食べやすく飲み込みやすくすることで給食を完食できる児童生徒が増えた。 ・給食週間には、クラスで調理員さんへの感謝の手紙を書くなど、食育学習に取り組むことができた。
 目指す教師像に向けた取組	 ・専門性の向上 ・関係機関との連携 ・校内支援 ・もったいなく ・高い人権意識 ・信頼される教師	小 学 部	・児童の健康安全に配慮し、緊急時に教師間で協力し迅速に対応する。	・児童の緊急対応及び「からだ」「かだい・食事」のマニュアル作成を部会で周知し、児童の実態に応じてマニュアル作成することができた。 ・保健部主催の緊急対応訓練では、想定される緊急対応をシミュレーションし、関係者で不安なことを話し合ったり、具体的な行動を確認したりすることができた。 ・緊急搬送では、迅速に救急車を要請ができた。緊急時に訓練どおりに動くことの難しさを感じた。関係者で改めて行動を確認した。
		潮風教室	・生徒の学習活動が充実するように、理解や発信、表現に効果的なICT機器、アプリケーション等を活用した授業実践を行う。	・ICT支援員と連携し、授業内のサポートや助言をいただくことで、ICT活用の知識を得ることができた。 ・アプリケーション「ロイノノート」等のICTを活用した授業は、年間80時間以上実践した。部会等で活用方法の情報共有をして、指導力向上を図ることができた。 ・授業実践の内容や様子は、潮風通信で保護者に数回、発信することができた。
		教育支援部	・各部の担当者が相談を聞き取り、複数の教師で対応策を検討する。 ・小中学校の教師や地域の関係機関からの相談内容に即した講話や相談会等を実施する。	・相談の流れを周知したことで、担任から相談を持ち掛けられることが数回あった。迅速に対応できるように、分掌会で情報を共有した。 ・地域の教員向けの勉強会では、代表教務主任に特別支援教育の教育課程について講話を依頼した。事例を交えた説明が分かりやすかったと大変好評であった。個別相談では、本校の教員が自作の教材等を提示しながら助言をし、すぐに役立つ知識が得られたと好評であった。
		研 修 部	・専門性の向上を目指した校内研修の充実を図る。	・今年度は夏季研修を13講座、ミニ講座を3講座実施した。アンケート調査で希望の多かった「音楽教育」に関する研修も実施することができた。実践的な内容で大変好評であった。 ・夏季研修を録画し、振り返りができる動画を作成した。短時間でも内容がおさえられるように、ポイントとなる言葉や資料を動画内に挿入した。今後、動画をどのように活用していくかが課題である。
		自立活動部	・外部機関と連携して、自立活動に関わる研修を積極的に行う。 ・自立活動相談の定着、充実を図る。	・夏季休業中に外部講師による自立活動研修会を6回実施した。事前アンケートで教員のニーズを把握し各研修会に反映させた。事後アンケートでは、どの研修会も「勉強になった」の回答が8割を超えた。 ・自立活動アドバイザーを増員（各部1名配置）し、より相談しやすい環境を整えた。今年度は半数以上の教員が自立活動アドバイザーを利用した。
		進路指導部	・関係機関と連携した指導、支援の充実を図る。 ・支援会議や進路相談の在り方を見直し、会議や相談の充実を図る。	・企業、福祉事業所と相談支援事業所の連携を密にして、生徒の適性や希望に沿った実習先を開拓した。今後は、進路相談の内容を踏まえ、関係機関と連携し、進路開拓の計画時期を早め、充実を図ってきたい。 ・12月の個別の進路相談では、関係機関と連携し、卒業後の生活を見据えた懇談ができた。家庭環境や障害に応じて必要と判断する生徒については、関係機関と相談して、個別支援会議を計画し、実施できた。
		管 理 職	・人権に関する川柳を募集し、部会や職員会議で紹介する。	・1学期に川柳の募集を行った。4点の優秀作品を決定し、職員会議で意図を周知できた。 ・「小グループで「ネットと人権」「学校生活と人権」の2点について課題や予防の手立てについて話し合った。グループごとにまとめるとともに職員会議で情報を共有できた。
 信頼される教師	総 務 部	・学校だよりの掲載内容、レイアウト等を見直す。	・他校の学校だより等を参考に、内容を精選し、レイアウトを変更した。 ・発行ページ数を4ページから2ページに変更することで、印刷業務の効率化、印刷コストの削減を図った。課題として、肖像権の確認と写真撮影の過程に非効率的な部分があり、今後も検討が必要である。	
	管 理 職	・多忙化解消に向けた業務の精選に取り組む。 ・不祥事防止の意識を高める。	・欠席連絡のアプリ化の定着により、電話対応の時間を短縮することができた。 ・毎週の定時退校がかなり定着した。 ・不祥事防止チェックシートを活用し、自身の振り返りの時間を設けることができた。	
学校関係者評価を実施する主な評価項目			(1) 適切な課題設定と自己選択を大切にした指導の充実（高等部） (2) 専門性の向上を目指した研修の充実（研修部）	